

## 公共施設のトイレ等の環境整備に関する

### 政策提言案作成委員会 県内調査概要

日 時 令和3年10月13日（水）午後2時53分～3時25分

場 所 影絵の森美術館内「和風レストラン花仙両」

#### 調査者

委員長 飯島 修

副委員長 猪股 尚彦

委員 望月 勝 河西 敏郎 白壁 賢一 渡辺 淳也

水岸 富美男 望月 利樹 清水 喜美男 流石 恭史

杉原 清仁

#### 欠席者

委員 卯月 政人

#### 対応者

昇仙峡観光協会会長

昇仙峡観光協会事務局長

#### ○ 質問・意見交換について

答) 本来なら長潭橋からが溪谷のスタートであるが、本日は短い溪谷を歩いていただいた。見てのとおり閑散としているところもあり、空き家をリノベーションして民間に貸し出すことも考えていかないとならないと思っている。やはり来ていただいた方に楽しんでもらえることが観光の条件であり、力を入れていきたいと思っているが、なかなか財政状況もままならない状況である。皆様のお力をお借りしてよい昇仙峡にしていきたい。

答) 昇仙峡は長い歴史があるが、こんなに大勢の議員さん方が来る機会はなかったので、本日はとてもよい機会である。今後とも皆様の力をお借りしながら頑張っていきたい。

問) 本当に久しぶりに昇仙峡に来て、改めて景観のすばらしさを認識した。昇仙峡には世界中から多種多様な方が来ると思うが、よかった点や悪かった点など、そういう声をどのように拾い上げているのか。

答) アンケート調査をしている。よい声、悪い声を集約して、観光協会等関係団体で共有して、こんなところをよくしようなど、話し合いをしている。

問) お客様の声を生かしてフィードバックを繰り返しているということか。

答) そのとおりである。あと、甲府市と連携しながら、リサーチをかけたり、SNSをチェックしたりしている。アンケート調査はJTBにお願いして、日にちを決めて実施したりしていて、今年も11月にやる予定である。

問) 先ほど歩いてきて、すばらしい溪谷美の前に枯れた木、折れた木があったが、昇仙峡全体のデザインは誰がやっているのか。

答) 景観が悪くなったから来てくださいというお願いを行政にしているが、昇仙峡全体だと規模が大きすぎてやりきれない。だから、昨年度は、先ほど見ていただいた夢の松島をとりあえずやりましょうということで作った。今年度は、もう少し下の天鼓林をきれいにする予定で観光協会でも年に何回か溪谷沿いの草刈等をやっているが、1年サボるとすごいことになってしまう。だから継続してやっていこうということで協会では頑張っている。

問) トイレがもっと汚れているイメージがあったが、便器自体も洋式に変えるなど、きれいになっていた。毎日清掃をして、美化を続けることは大変だと思うが、ぜひ美しい溪谷美とともに今後も維持して、地域が栄えていくように頑張ってもらいたい。

答) 昨年日本遺産に認定されたこともあり、溪谷の道だけでなく、当時修験者たちが歩いた古道があるので、今、甲斐市と甲府市を絡めたワーキンググループで、歩けるような環境づくりということで、歩道の

整備を検討している。ワーキンググループには県も入っているが、明日もその検討があって、金桜神社の方から敷島の方へ抜ける道を歩くので、そういう中で新しい発見をして、よいスポットがあれば伐採などもやっていこうと話し合いを進めている最中である。新しい道も一つの売りとして世に出れば良いと思っている。

答) 委員の話でもあったが、私も2日前に溪谷の中間点にある天鼓林のトイレを見てきたが、こちらのトイレもきれいだった。周りの観光協会会員の方に話を聞くと、市の公衆トイレに関しては汚いという話も結構あるということで、たまたま掃除をした直後か、改修した直後だったのできれいだったのかなと思っている。それと、県営駐車場のトイレは観光協会会員にお願いをされていて、1日2回の清掃をするが、その方がやれなくなった場合にどうするかという問題もある。なかなか業界の目ぼしい人に話をしても、商売と一緒にやっているのもので難しいとのことで、このような課題がある。

問) 今回はトイレの調査ということであったが、刈り込みは、やはり昇仙峡の玄関口に、しっかり手をいれるべきだと思う。観光協会さんにやってくださいとは言わないが、何かやるということであれば、やはり昇仙峡の玄関口、入り口の草を刈りこんで、観光客によいイメージを与えられるように観光地として考えてほしい。

答) 観光協会でやれることは限られていて、昇仙峡は国立公園内で、県や市の許可が必要な部分もあり、さらに民地も入っている複雑な地形という現実がある。観光協会でも、1年ごとにこっちを刈ってあっちを刈ってという感じでやっているが、高齢化が進んでいて、草刈り機などを扱える方が少なくなって、なかなか民間ではできないという状況である。そこら辺は、中北建設事務所の河川担当などをお願いをして、刈ってもらっている。

問) 草刈りなど景観は景観として整備してもらいたいが、我々は今、トイレで地域おこしを考えていて、どこへ行っても日本のトイレはきれいで、山の中であってもすばらしいトイレがあったら、お客さんはどう感じるだろうというところからできた委員会である。

答) 昇仙峡ロープウェイの山頂駅のトイレを3年ぐらい前に改修して、

デパートのトイレと同等ぐらいにきれいにした。お客さんからは、山の上にこんなにきれいなトイレがあるのは初めてという声をかなりいただいた。手洗いは自動で、空調も完備されている。

問) そのレベルではない。都内ではトイレを目指して来る人もいるくらいである。例えば、千葉県は75%の補助率で独自の補助制度をつくってやっている。和式から洋式に変えて、暖房便座とウォシュレットにした。これがすごいということではない。こんなところにこんなトイレがあるのかと日本全国から注目を浴びるようなトイレになる可能性がある。だからこの委員会では、もう少し違う発想で、切り口を変えてやりたい。世界にはきれいなトイレがたくさんある。もう少し待っていて、我々も結果を出して、お伝えをする。

問) きれいなトイレをいかにキープしていくかということも課題である。観光協会だけでは限界があるし、昇仙峡を美化するために、いろいろな団体と連携しながらやっていかないと厳しいと思うので、この委員会でも考えていきたい。最後に、マウンテンバイク、カヌーなど昇仙峡の新たなアクティビティの現状とこれに期待する思いを聞きたい。

答) 昨年日本遺産の補助事業で、カヌーを15台、マウンテンバイクを10台、テントサウナを6基、約800万円購入した。昨年の秋はカヌー、テントサウナ、マウンテンバイクを1回ずつやったが、今年は本腰を入れてやっていて、今週末までであるが現在も開催中で、カヌーを荒川ダムで8日間開催した。カヌーが終わると同時に、次はマウンテンバイクで、荒川ダムから黒平の途中まで行き、ロープウェイで帰ってくるというコースもやっている。テントサウナはマウントピア黒平で12月中旬までやる予定で、先週、山梨日日新聞にも掲載して周知をしている。最後はトレッキングで、先ほど話した古道を歩き、郷土料理のほうとうを自分で作って食べるという、本年度はこれまでとは違う思考でやっている。テントサウナは人気がなくに残っているが、マウンテンバイクとカヌーとトレッキングは新聞に載った日の昼に完売となった。そうした中、県内の高校から30名ぐらいでやらしてくれないかという電話があった。学生にやらせたいという先生がいて、どうにかやらせてくれないかということだったが、県との絡みもあって許可がおりてないのでできませんなど、いろいろとある。た

だ、一度やってみると結構反響があるのが現実で、また来年度、春夏秋冬、冬は厳しいがトレッキングくらいはできるので、四季折々の良いものを求めながら取り組んでいきたい。

答) 日本遺産の関係で補助金が出て、2年続けて大々的にマウンテンバイクなどのアクティビティを開催することができている状況である。現場の評判もよくて、地元の子供たちも、カヌーをとっても楽しんでくれているという声をたくさん聞いている。これが定着していくと昇仙峡の魅力の継承にもつながるのではないかと感じている。今までは、ただ溪谷を見て、自然鑑賞をして帰るのが一般的であったが、実際に体験をして楽しんでもらうという新たな面もある。

以上



※ 昇仙峡県営駐車場及び夢の松島園地のトイレを視察した後、影絵の森美術館にて意見交換会を実施した。